

海幕勤務雑感

海幕 調2

平間 洋 一

一、着任報告

念願かたつて、やつと乗れた船を一年で降ろされ、四食昼寝、士官室係付きの殿様の生活から三食自前のわびしい海幕生活に突き落とされてから、足掛け二年、通算四七日の歳月が過ぎた。毎朝、「食事用意宣し」の士官室係の声に「オー」とか言つて起きていた大船務長殿も、今では五時半、女房のややヒステリックな声に起こされ、五時五十分自宅発、「十七時三分に電気が消え、ハサミとノリがあれば動まるよ」と言われて着任した調査部を七時から八時に退庁、ミニヤパンタロンを横目に、空腹を我慢しつつ、サパークラブ・「キヤラバンサラエ」の前を通り、焼鳥屋の角を曲つて地下鉄六本木着、銀座、新橋は地下から地下と通過、ドブねずみのごとく、ネオンも見ずに九時から十時頃自宅着。

「長崎は今日も雨だった」と長崎の町を「一に三菱、二に県庁、三、四がなくて五に「あまつかぜ」とやや落ちる店の上客として闊歩していた昔が懐かしい。

二、艦隊勤務者を優遇すべし。

娑婆のマイホームムードが音もなく艦隊にも流れ込み、一、二曹の帯妻者で艦隊希望者は目下急激に減少中、分隊長面接時の泣きどころだ。

この衰えを見せない海軍ブームが続くのは何故であろうか。それは三国同盟に、戦争に強く反対しながらも、戦を命ぜられれば主戦投手として、空母機動部隊をはじめ、航空機による戦艦撃沈、Out Range 戦法と独得な戦術戦法を駆使し、ハワイ、マレー、ガダルカナル、沖繩と戦い、戦局不利となるや、神風特攻隊、回天、そして最後には大海軍の象徴「大和」まで特攻作戦に投入する全力投球をし、敗戦確実となるや、陸軍を押し、総理大臣鈴木貴太郎大将を主とする終戦工作、そしてあれだけ激しく戦った海軍の糸乱れぬ敗戦時の美事な統制。

伊藤正徳氏の言う「良き人間、良き仲間、スマートで目先のきく、海軍の先見性等に対する尊敬にあつた」思う。

しかし同じ旗を仰ぎながら、現在の海上自衛隊はどうであろうか、戦術の基本である単縦陣（Line of Column）を単縦列と直訳し「Base Course」と「Guide Course」との差異に議論百出、最後には米海軍の見解によればと一寸英語のできるアメリシヨンの一言に万事を決する主体性のないAP万能が、すでに二十数年続き、艦上にはスエーデン製のBOFORSからスイス・イギリス・アメリカ製の各種兵器が万博武器展示会場の如く並び、そこには何一つ独得な武器も戦術もない。

幹校評論は一佐又はOBの記事に終始し、若い少佐以下が、「Gloval」なセンスで活発に議論するアメリカのNaval InstituteやフランスのLa Marine等の雑誌とは対象的である。

明治初年北方領土「千島」の重要性を叫び七隻のカッターで

細かいことは判らないが、「定時退庁、明かるい家庭」をスローガンに当直もあまりない陸上勤務の方が三日に一回当直、出港の多い艦隊勤務者より、二曹以下なら営外手当を含めれば年間所得が多いそうさ。

マイホームムードの中で、経済的不利益、上陸回数のない不平不満を馬耳東風と聞き流し、指揮官の優れた人格よりにじみ出た統卒で、早朝訓練にはじまる厳しい訓練を行なえというのだから厳しいよ。

航海手当の増額、艦隊手当の新設、人事取扱上及び厚生面からの優遇策等、特別の施策を講じない限り、今日昭和一桁の戦中派先任海曹によつてかろうじて保たれている艦隊の術科練度は落日の勢で低下するであろう。

「幹部の名統卒に毎年一生懸命やってみようが、入隊以来十八年、一年毎に代る幹部は良いが、乗りつぶされる馬のことも考えて下さいよ」と不平一つ言わなかつた先任海曹の言葉が耳から離れない。

どうか経補関係の諸兄、艦隊勤務者の優遇策を考えてくれ、精強な艦隊を作るために!!

三、伝統とバイタリティー
戦後二十六年、滅びし帝国海軍への尊敬とあこがれは一向に衰えることを知らず、最新では「明治日本の文化遺産」という言葉さえ聞かれる。

品川を漕ぎ出しエトロフに渡つた群司中尉のバイタリティーや回天の採用を強固に上申し海軍大臣を最後に説得させた黒木中尉や仁科少尉の愛国の情、愛国の至情、そしてこのような行動力がわれわれに、またそれを認めるフレキシビリティが今の海上自衛隊にあるであろうか。

潜水艦へのミサイルとう載の着想を上司に提出したが認められず、海軍部長に直訴しポラリス体系を築きアメリカの、いや世界の戦略を変えたのはリコッパ―中将が少佐の時であり、そのポラリスの固形燃料化を提起し開発のイニシアティブを握つたのは二十八才の中尉であつたと聞く。

Angle Deck VTOL HARRI ER Harican Bow Gas Turbine Hornier 等独得な武器を持ち戦術を持つ英海軍で強く感ずるものは若い士官の気迫と組織の非固定化である。

海上自衛隊をみても61戦車、61小銃、対戦車ミサイルMAT、P-30ロケットと続々国産兵器を装備し、ドイツ、フランス陸大を卒業した級友がすでに幹部学校教官として発令され（防大三期の教官を含め、すでに十名を越える）新しい戦術が若い士官の間から創造されようとしている。

陸上自衛隊は泥臭く、アメリカはヒッピーにむしばまれ、イギリスは傾陽の老国と言うのは自由である。

しかし、われわれは旧海軍の偉大さ、栄光に支えられ形骸化された伝統に唯すがりつき、自分達まで偉くなったような錯覚を持つてはいないだろうか。

The Hirama family had not a big changes in 1973.

Youichi can not escape from Roppongi Prison (Maritime Staff Office in Tokyo) and still has been working in same duty with pencil and writing eraser from the morning till late in night. But he feel that he has let all of you know that he got a new car in last April and promoted to Commander in July.

Youichi became already 40 years old and exhausted in working at desk. He dreams to breath a fresh air at the sea as a Commanding officer. On his personal transfer reports it has been writing that as far as ship he has no choice, any place, any time and also any ship, even a water barge.

Mrs Hirama, Fusae-San do not permit to write her age exactly, if memories are correct, she is younger than her husband 2 or 3 years old.

Once she was very strict to home education for two sons, for piano, manners and home study, in order to realize her dream which was not satisfied by her husband, neglecting their inheritances.

But now, sorry to her, she understand the importance of inheritance. After that she was very busy for bargain sales against high price in Tokyo.

Two sons, HIROHIKO (11 years old); AKIHIKO (9 years old) are still eager to make a plastic models.

They have already 36 Ex Japanese Warships. Their Order of Battle in the begining of December are listed as follows, but this imformation is classified "SECRET" special handling are required.

Battle of Order (Hiranamanian Navy)

Battle Ship	6	YAMATO X 2 NAGATO. HARUNA. HUGA. KONGOU.
Aircraft Carrier	7	AKAGI. KAGA. ZUIHOU. ZUIKAKU. JUNYOU SHOUKAKU. TAIHOU
Heavy Cruiser	4	TAKAO. MAYA. FURUTAKA. HAGURO
Light Cruiser	6	YAHAGI. TENRYU. UBARI. SUZUYA. KITAKAMI YODO
Destroyer	8	
Submarine	5	

Remarks : It is reported that in late December rapid expansion of their Fleet are expected by Christmas present from their grand parents.

Above is present states of Hirama Family in the begining of 1974.

And at the begining of this new year, Hirama Family would like to express thier sincere New Year's greating to your family.

Also , would like pray that coming year will be delightful and fruitful one for your family and also to our family.

Sincerely Yours,

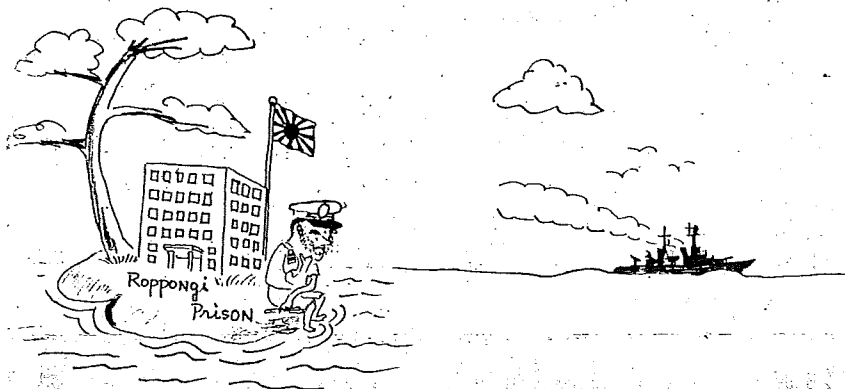
Hirama Family

Youich

Fusae

Hirohiko

Akihiko



前述のとおり興るべき明治の海軍にも、世界一、二を争う米英の海軍にも組織の老化を妨げる若い士官の意気、気迫、バイタリテイがあった。

われわれに必要なものは海上自衛隊はわれわれで作り育てるという意欲であり、気迫、さらに表現を強めるならば自己より海上自衛隊を愛するという純粋な気持ではなかるうか。

万博の標語は「進歩と調和」であったが、海上自衛隊に必要なものは進歩であり、革新であり、われわれ中堅幹部の独創力とそれを実現する行動力であると思う。

四、新しい武器とセクションリズム

Senser・通信手段の発達、武器の有効射程、破壊力の驚異的増大は CAP・JAMMER・CHAFF ミサイル砲と幾重にも連らなる対処武器を必要とし、ここに武器体系、武器管制という思想が生れた。

しかし各科の面子や縄張り争い、自己の術科に対する狭隘な愛情に妨げられ個々の武器をシステムとして組合せ、その全能を發揮するような術科区分や艦内編成とはなっていない。

今こそ明治以来変らぬ一分隊、二分隊等の艦内編成に再検討を加え、武器体系に合致した、武器体系中心の艦内編成に改編すべきであると思う。

さらに、新しい武器は新しい教育、戦術をはじめ

TEAMS (故障発見システム) 部品ユニット交換、補給の

COSAL 化をはじめ造修、補給等の分野にまでその改善を進

めなければならぬが、それだけに各部の利害の対立を生じ勝ちであろう。

リリコッパ中将はポラリス体系を確立する技術的困難より部内の異なる意見、対立を解消する方が難かしかつたと述べている。

各部各科の利害、面子等の対立をわれわれのところでは解消するだけの力をわが八期は持ち、新しい思想、組織で新しい武器を運用し、その武器の、武器体系としての最大能力を發揮したいものだと思う。

